

「人生で一番可愛い日」

—修正稿—

2025/12/28

しのめ ののの

〈人物表〉

最上 もがみ
心愛 ここあ

(23)
無職

最上 心愛

(6)
幼少期の心愛

最上 ゆあ

(23)
心愛の母親

高梨 彩乃

(25)
心愛の幼馴染。ネイルサロンスタッフ

1.

(回想) 最上家のアパート・リビング(昼)

激しい雨音が、ボロアパートの一室に響いている。
カーテンが閉め切られた暗い室内。

最上心愛(6)の泣きじゃくる声。

最上ゆあ(23)が喚きながら心愛を叩いている。

ゆあ 「こんなの要らねーんだよ。 **かわいこぶりやがつて**」

心愛 「ごめんなさい、ごめんなさい」

心愛の手には、オレンジのナガミヒナゲシ。

野花の毒素で、心愛の手が荒れている。

ゆあ 「それとも当てつけか？ 気持ちわりーんだよ」

自身を庇う心愛の体には、痣や傷跡が複数ある。

ゆあ 「こっちはお前のせいで……お前さえいなければ」

心愛 「ごめんなさい、ママ、ゆるして」

ゆあ 「ママもう生きてけない。お前のせいだ」

心愛 「やだ、ママ、やだあ」

心愛、泣きながらゆあに縋りつく。

ゆあ 「やだじゃねえよ。媚びてるつもり？ 可愛くない可愛く

ない可愛くない！」

ゆあ、心愛の手から花をはたき落とし、踏み潰す。

ゆあ 「そんなに死んでほしくないなら、お前が死ぬ」

ゆあ、心愛の首を絞める。

心愛、苦しみつつ泣き続ける。

心愛 「ごめんなさい、ママ、ごめんなさい……」

2.

(回想) 最上家のアパート・寝室(夕)

雨は止んでいる。

心愛、ボロボロの薄い敷布団で縮こまるように眠っ

ている。首元には絞められた跡。

カーテンの隙間から、夕日が差し込んでいる。

心愛、もぞもぞと起き出す。

3.

(回想) 最上家のアパート・リビング(夕)

寝室から移動してきた心愛、リビングの扉を開ける。

心愛、凍りついたようにその場で立ちすくむ。

眼前に、首を吊ったゆあの足が揺れている。
薄いカーテン越しに差す夕日で、部屋がオレンジに
染まっていく。

心愛、徐々に過呼吸になり、その場に崩れ落ちる。

4. アパート・心愛のワンルーム（朝）

暗闇の中、突然**痛可愛い**系のJPOPが爆音で流れる。

スマホから流れる**アラーム曲**である。

心愛（23）、はっと目を開けて飛び起きる。

白とピンクで統一された、お姫様系ロリータ趣味全
開の部屋。

フリフリの遮光カーテンの隙間から日が差している。

心愛、暫くぼんやりしている。

少しして、スマホから流れる曲を止める。

スマホを触る指には、ボロボロのネイル。

心愛、ベッド脇のミニテーブルに目をやる。

5月の卓上カレンダー。

12日の欄が真っ赤に塗りつぶされている。

心愛、それをじっと見つめる。

突然、苛ついた様子でカレンダーを掴み、投げる。

息をついてから、ベッドから出る。

遮光カーテンを開け、似たような別の曲を再生。

スタンド鏡の前に座り、コテコテのドールメイクを

始める。

5. 街中（朝）

心愛、曲を聴きながら街中を歩いている。

フリフリのロリータワンピース。

髪が巻かれメイクもされているが、全体的に荒く、

どこか中途半端な状態。

6. ネイルサロン・外観（朝）

派手な外観のネイルサロン。

ヘアメイクサロンも兼ねているタイプの店舗。

7. ネイルサロン・施術用の個室（朝）

心愛、可愛らしい個室で椅子に座っている。

店内には、心愛が聴いていた曲が流れている。

高梨彩乃（25）、心愛にネイル施術をしている。

彩乃 「……てか、久しぶりじゃん」

心愛 「たしかにー。なんか病んでた」

心愛、へらへらと笑う。

彩乃 「でも今日めっちゃ気合い入ってない？ 可愛いじゃん」

心愛 「やば。彩乃に褒められんの久しぶり。今日ハイかも」

彩乃 「……なんかあんの？」

心愛 「んー、そう。大事な日かもー」

スタッフ「ふーん……」

彩乃、手際よく作業を進めていく。

8. ネイルサロン・外（昼）

心愛、ネイルサロンから出てくる。

彩乃に軽く手を振る。ネイルが綺麗になっている。

イヤホンをつけ、歩き出す。

彩乃、去る心愛の後ろ姿をじっと見つめている。

9. マンション群（昼）

心愛、マンション群の中に入っていく。

10. マンション・外階段（昼）

マンションの屋上へ繋がる外階段。

心愛、淡々と上がっていく。

11. マンション・屋上（昼）

階段から続く建付けの悪い扉。

ガン、ガンと内側から何度か蹴られた音がし、扉が

開く。心愛が出てくる。

心愛、屋上の手すりまでやって来て下を覗く。

中庭のようなエリアになっており、誰も居ない。

心愛、荷物をおろし、厚底のゴスロリブーツを脱ぐ。

爆音の流れるイヤホンを外し、バッグに仕舞う。
静けさが訪れる。

心愛、屋上の手すりを乗り越え、際に立つ。
目を閉じる。風の音だけが聞こえている。

心愛、清々しい表情で投身しようとする。
ちょうどその時、彩乃の声が聞こえる。

彩乃 「ちょいちょい」

心愛、ハッとして手すりを掴み直す。

振り向くと、彩乃が立っている。

心愛、顔をしかめる。

心愛 「え、なに？　なんでいんの」

彩乃 「早上がりした。今日、やんのかなと思って」

心愛 「だる……なんで分かんだよ」

彩乃 「だって、誕生日でしょ。お母さんの」

心愛 「覚えてたんじゃん……バカが死んだ日な」

彩乃 「え、じゃあ、今住んでる部屋は？」

心愛 「……は？」

彩乃 「解約すんの？」

心愛 「……え、なんで？　なんで部屋の話？」

彩乃 「いや、あんたが死ぬならあーしが住みたいなーと思って。
今住んでるとこ、出てかなきゃいけないんだよね」

心愛 「……はあ？」

心愛、手すりをぎゅっと握り直す。

心愛 「いや……え？　今この状況の人間に対して言うことか？

幼馴染でしょ一応」

彩乃 「だからだよ。止めれるわけないし」

心愛 「それはそうだけど……」

不意に遠くから声が聞こえる。

心愛が中庭を見下ろすと、誰かが心愛を指差している。
人が集まり、ちょっとした騒ぎになっている。

心愛 「最悪……」

彩乃 「一旦戻れって。タイミング悪いよ」

心愛 「お前のせいだろ……」

心愛、渋々手すりの内側へ戻る。

12. ネイルサロン・施術用の個室（昼）

心愛、険しい顔で個室の施術室に座っている。

心愛 「……早上がりしたんじゃねーのかよ」

彩乃 「したよ。緩い店だからさ。今日、客いねーし」

心愛 「あっそ……」

彩乃 「……別に、やめろとは言わないけどさ」

心愛、警戒の目を彩乃に向ける。

彩乃 「まあ、あんたらしくはないわな」

心愛 「あたしらしいって何だよ。知った口きくなって」

彩乃 「でもさあ」

心愛のネイルを見て、それから自分の両手を見せる。

彩乃の指にも、派手なネイル。

彩乃 「あーしら、こういうので戦ってきたわけじゃん？」

心愛 「だからもう疲れたんだって」

彩乃 「いや、まだやれるね」

心愛 「はあ？ お前が決めんな」

彩乃 「もっと可愛くなれるって」

彩乃、ヘアアイロンやメイク道具を準備し始める。

心愛 「は？ ヘアセットとか頼んでないんだけど」

彩乃 「あーしが奢ったげるからさ」

彩乃、心愛のトータルメイクを始める。

心愛、渋々されるがままになっている。

13. ネイルサロン・施術用の個室（昼）

心愛のトータルメイクが完成している。

見違えるほど綺麗に仕上がっている。

心愛 「……流石にプロって感じ」

彩乃 「あんたの調子が悪かったただだよ。いつもより雑だった

もん」

心愛 「可愛いつつたくせに」

彩乃 「気合い入ってるなうとは思ったから。一応お客様だし？」

心愛、苦々しい顔をしてからため息を吐く。

心愛 「……わかったよ。今日はやめとく」

彩乃 「別にやめろとは言ってないよ。どっちにしろ可愛い方が
良くなってる」

心愛 「わかってるよ。でもなんか萎えた。代わりに、ちょっと
付き合って」

14. ネイルサロン・外（昼）

心愛と彩乃、ネイルサロンから出てくる。

心愛、歩き出す。

彩乃、不思議そうに心愛へついていく。

15. 花屋（昼）

心愛と彩乃、花屋の店先へやって来る。

心愛、店員へ話しかける。

16. 花屋（昼）

心愛、店員からオレンジの百合の花束を受け取る。

心愛と彩乃、店から出て歩きだす。

彩乃 「なんで百合？」

心愛 「ガキの頃はさあ、花買う金とか無かったんだよ」

彩乃 「はあ」

心愛 「で、その辺に咲いてたオレンジの花あげたの。そしたら

死んだ」

彩乃 「やばあ……知らなかった」

心愛 「流石に言えないよ」

彩乃 「……そうだよね」

心愛 「ババアが23の時。だから今年やろうと思ってたのに」

彩乃 「あんたも23だからか」

心愛 「律儀でしょ？ 可愛いところなんだよな」

彩乃 「……まあ、そうとも言える」

17. 墓地（夕）

人気のない墓地。

日が傾き始めている。

心愛と彩乃、最上家と記された墓の前にやってくる。

心愛、真顔で花束を掲げ、突然墓石に叩きつける。

心愛 「死ね、死ねよ、てめえが死ね、クソが」

心愛、叫びながら墓を蹴り、暴れる。

彩乃、あつけにとられた後、軽く笑いだす。

彩乃 「やばあ」

心愛、彩乃をキッと睨みつける。

心愛 「オレンジの百合の花言葉、なんだと思う？」

彩乃 「え？ わかんない」

心愛 「憎悪だつてさ」

彩乃 「ああゝ。なるほどねー」

心愛、墓に向き直って再び暴れる。

心愛 「なにが当てつけだよ。テメーが当てつけだろ。死ねよマジで、ゴミがよ」

彩乃 「もう死んでんだつて」

彩乃、けらけらと笑う。

心愛、かまわず髪を振り乱しながら暴れ続ける。

次第に涙が出てきて、メイクが崩れていく。

彩乃 「はー、可愛くねー」

彩乃、笑いながら目じりの涙を拭う。

心愛の叫び声と彩乃の笑い声が響く中、辺り一面がオレンジ色に染まっていく。

おわり